

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第21回

2014年
1月25日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料。

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



小栗虫太郎の世界

虫太郎周辺の人々とサーカス

報告者: 大島 幹雄

山口さんの前座として、虫太郎と関連づけられる人たち——松山俊太郎、澁澤龍彦、種村季弘らとサーカスの意外な関係についてお話しします。

ケルト・ルネサンス——虫太郎の創った世界

やまくち かつや
報告者: 山口 雄也

戦後すぐに亡くなった小栗虫太郎は、以降のミステリー隆盛の中でも、他の作家の追従模倣を許さない作品が多い作家です。彼の代表作『黒死館殺人事件』は学術的な語彙を無数に含んでおり、その多岐にわたる魅力に惹かれて、出典の探索を続けてきました。

今回は黒死館建築のキーワードとなる「ケルト・ルネサンス式」という言葉から、彼の作りあげた語彙の迷宮に迫ります。大正期に素養を培った虫太郎の文学的背景を、当時流行したアイルランド文学研究と表現主義の面から見てみようと思います。

●山口 雄也 (黒死館愛好家) 「黒死館古代時計室」 <http://klio.icurus.jp/kck-dic/>

★会場にて、「黒死館追遠総集編 CDROM」、「虫太郎資料集タクタク1-3号」、「黒死館殺人事件の絵葉書集」を販売します。



「黒死館殺人事件」初出『新青年』挿絵 1934



VIII 32 Cloughanajoy Castle, near Lisrick, Ireland. By G. F. Tower of York, c.1548-50.
19世紀アイルランド城館図



映画「巨人ゴーレム」ポスター 1920

小栗虫太郎(おぐり・むしたろう 1901-46)

探偵・伝奇小説作家。東京生れ。1933年に「完全犯罪」を発表、その異色の素材と清新なスタイルで探偵文壇の注目の的となった。翌年の長編「黒死館殺人事件」は絢爛たる抽象論理の世界を構築したユニークな作である。その後は新伝奇小説と銘うって、「二十世紀鉄仮面」など、異国情緒を底流にした怪奇ロマンを生んだ。

(kotobank.jp / 世界大百科事典 第2版より)